

平成18年度麻布大学同窓会宮崎県支部総会開催報告

新年早々宮崎は「まさか」の出来事に沸き続けた。正月気分覚めやらぬ1月中旬、養鶏王国宮崎は突然、鳥インフルエンザの発生に見舞われた。場所は宮崎空港や宮崎大学から近い1万羽規模の種鶏場。「すわ一大事」。

しかし、宮崎の家畜防疫陣は冷静沈着に防疫の布陣を引いた。それには、ある貴重な体験があった。平成12年3月、わが国では96年ぶりの口蹄疫の「まさか」の発生を経験している。誰もが未経験の海外悪性伝染病発生に畜産県・宮崎の威信をかけて関係者が一致団結して短時間で封じ込めることに成功した。この時の経験が身に沁みっていた。防疫資材備蓄から演習までこまめに実施していた。

口蹄疫防疫の経験を活かして1撃目の発生に全力を傾注し一連の防疫作業も終え、選挙前から注目されていた知事選挙には何とか行ける状態になった。九州的保守王国宮崎での知事選も開票開始3分後には「まさか」の「当確」速報。第17代知事には県民の圧倒的支持で「そのまんま東＝東国原英夫」知事が選ばれた。マスコミの脚光を浴びて初登庁日の夜に何と県北の山間部歌人若山牧水の生誕地近くで今度は5万羽飼養のブロイラー農家で「まさか」の鳥インフルエンザの2件目の発生。知事は、就任翌日早朝には作業服姿で現地入りし状況把握と関係者の激励を行なった。知事直々の激励に励まされ携帯電話も通じない狭隘な真冬の山間地の現場で奮闘を続け、ようやく防疫措置が終わろうとしていた矢先に、さらに非情にも第3撃が襲った。今度は全国でも有数の養鶏密集地帯で10万羽飼養の採卵鶏での発生、疲労困憊の防疫陣は血刀も乾かぬ内に次の戦場へ移動し、また激闘を繰り広げ3件3様の形態の農場に対し伸べ6千人近くの人員を投入し2月初旬すべての防疫措置が完了した。

このような状況から同窓生も「戦士」として防疫対応に忙殺され、例年1月末に開催していた支部総会開催を危ぶんだが、終息のめども立ち、現地で奮戦した同窓生の激戦の様子を聞きながら慰労も兼ねて2月10日に延期して宮崎市内で開催した。本部から紫野会長の出席をいただき、終戦処理で参加が叶わなかった家保勤務の同窓生を除き23名の参加で、大いに盛り上がった。例のごとく2次会・3次会と繰り出し、知事の宣伝効果で発生前より知名度と売り上げが格段に伸びた「炭火焼地鶏」と芋焼酎で麻布仲間の心意気を十分に発揮し「よか晩」となった。

最後に、今回の鳥インフルエンザの防疫支援に全国各地から馳せ参じていただいた同窓生各位にこの場を借りて深甚の謝意を表しますとともに、知事がトップセールスでPRに努めている宮崎産品のご愛用をお願いし開催報告とします。

宮崎県支部事務局 工藤 寛(昭52卒)